

期待される整備効果

(1) 高速道路の利便性向上

和歌山市南部地域の高速道路へのアクセス性が向上するとともに、高速道路利用者が分散し、既存 IC 周辺道路の混雑が緩和することで、高速道路利用者及び周辺道路利用者の利便性が向上します。

○和歌山市南部から利用者が多いりんくうプレミアムアウトレットなどがあるりんくうタウンへの移動の場合、和歌山南スマート IC を利用することで和歌山 IC 利用と比べ、約 12 分短縮することができ、利便性が向上します。

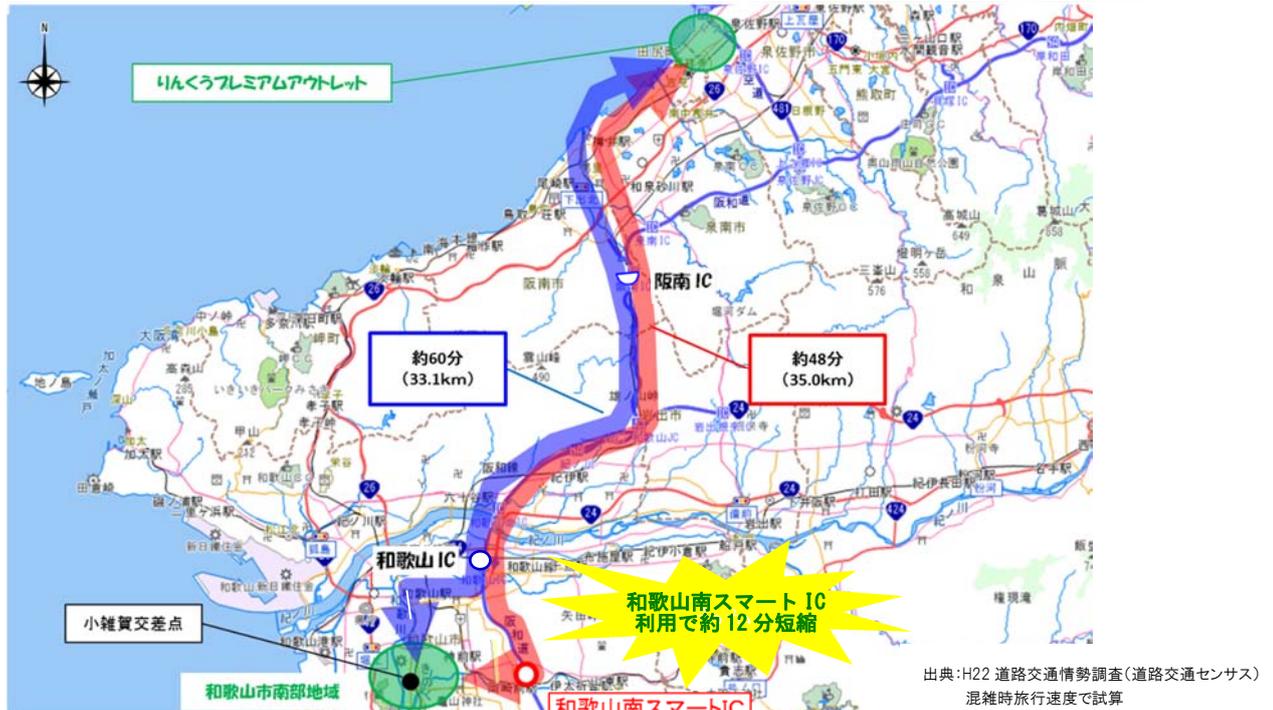


図1 和歌山南スマートIC 設置前後の阪南市へのアクセス時間比較

○和歌山南スマートICの整備により、IC 利用5分圏域人口が、約50,000人から約73,000人に増加(和歌山市内のIC 5分圏域人口割合が14%から20%に上昇)するとともに、圏域の拡大により既存 IC 周辺道路の混雑が緩和することで、副次的に高速道路利用者の利便性が向上します。



図2 和歌山南スマートIC 設置前後のIC 利用5分圏域人口の変化

(2)産業振興

和歌の浦などの観光拠点や工業団地が立地する臨海部とのアクセス性向上。企業誘致の促進など、観光振興や企業振興に寄与することができます。

○和歌山マリーナシティ、和歌の浦、紀三井寺、和歌山電鐵貴志駅(たま駅長)、桃源郷を巡る新たな観光周遊ルートのパッケージツアー開発が見込まれ、観光振興に寄与することが見込まれます。



図3 新たな観光周遊ルート及び観光地位置図

○高速道路 IC までのアクセス時間が短縮されることで利便性が向上し、円滑な企業活動に貢献することが見込まれます。

- ◆和歌山下津港からでは約 25 分から約 18 分に 7 分短縮
- ◆和歌山市内南部地域からでは約 26 分から約 16 分に約 10 分短縮



出典：H22 道路交通情勢調査(道路交通センサス)
混雑時旅行速度で試算

図4 和歌山下津港から IC へのアクセス時間比較

(3)防災機能の強化

津波浸水時に、沿岸部の被災者や防災拠点へ向けての新たなルートを活用し、迅速な救助・救急活動を実施することが可能となります。

- 災害時には、和歌山南スマートICの設置により、新たなルートを活用し和歌山市から海南市間の被災地や防災拠点へ向けて、迅速な救助・救援活動や応急復旧活動を実施することができます。
- 新たに約 35,000 人(和歌山市総人口の約 1 割)の救助・救援ルートとしての活用が期待できま

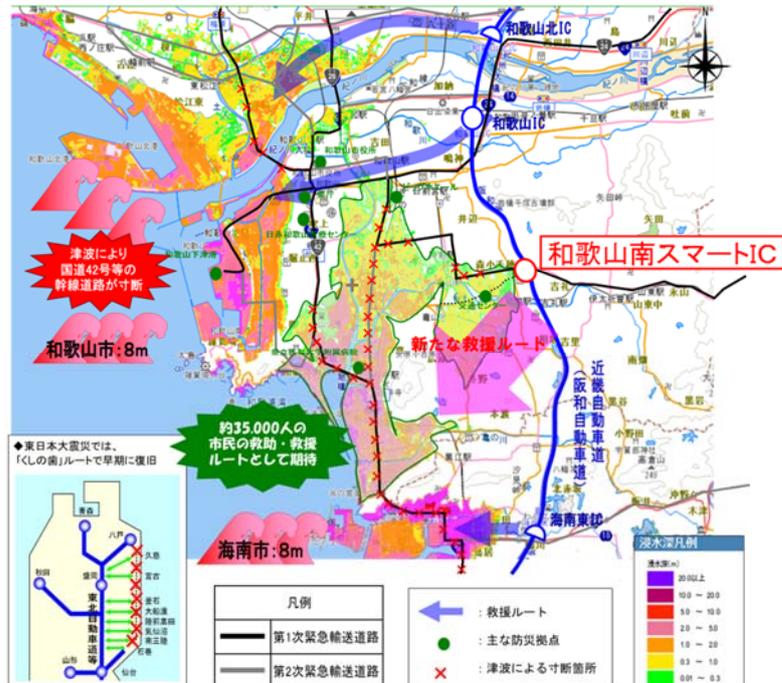


図5 津波浸水予測(和歌山県「和歌山県地震・津波被害想定検討委員会」[H25.3])

(4)広域的な高度医療体制の充実

第三次救急医療機関である県立医科大学附属病院へのアクセス時間が短縮され、広域的な救急医療体制の充実を図ることが可能となります。

- 紀伊小学校から第三次救急医療機関である県立医科大学附属病院へのアクセス時間が約 13 分短縮されるなど、広域的な救急搬送体制の充実を図ることが可能となります。



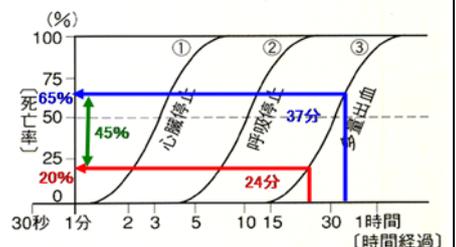
図6 和歌山県立医科大学附属病院への時間比較

【参考】カーラーの救命曲線

上記事例では、紀伊小学校～和歌山県立医科大学間の移動時間が、37分から24分に短縮されるため多量出血の場合は**救命率が約45%上昇**します。

(死亡率 65%→20%に低下(下図の緑色))

<搬送実績>和歌山市内から県立医科大学附属病院への搬送人数：2,604人(平成29年実績)



出典:H22 道路交通情勢調査(道路交通センサス)混雑時旅行速度で試算